

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 大学院指導教員の研究専念時間を確保する。	→担当科目数の適正化と職務分掌の公正化(時間数)。外部研究資金への申請数、採択数、採択率。	B	B	B	B	B
2. 大学院生の研究成果発表を促進する。	→大学院生の研究成果発表数。	B	B	B	B	B
3. 教育研究を支援する環境や条件の整備;個人研究室の整備、教育設備・機器の充実化を継続する。	→個人研究室使用に関するニーズアセスメントのデータ。	C	C	B	A	A
4. 学内倫理委員会による「人を対象とした臨床・調査・実験研究」倫理規程を厳格に適用する。	→学内倫理委員会の審査を受けた研究申請数。	C	C	B	A	A
5. 各種研究助成金制度(個人研究費、学会出張費、大学の国際発表助成金制度)の継続的発展を確認する。	→各種助成金成果報告書	B	B	B	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度の文学研究科教員(学校教育学領域をのぞく)を研究代表者とする新規科研費採択課題数は8件、新規・継続あわせた件数では17件であった。また、学校教育学領域教員は3件が採択されている。比較的高い水準を維持しており、研究環境は好条件にあることがうかがわれる。大学院における実際の担当科目数は受講者の有無などにより流動的である。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 科研費採択結果や他の研究費、助成金獲得状況は教授会で報告されており、そのことが教員が専攻や領域を超えて積極的に研究を進める必要性を意識することにつながっている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 業務の精査に基づく簡素化を通じて研究時間および大学院生への指導時間を確保できるようにする必要がある。	☆
		その他	☆

目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院生の研究成果の発表を促すための研究支援制度を設けているほか、各専攻や領域が持つ紀要、年4回刊行の人文学会機関誌「人文論究」により院生の研究成果の公表を可能とする環境を整えている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度に研究支援制度を利用した院生数は21名、「人文論究」に研究成果を発表した院生は13名であった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究支援制度の改善については大学院生からも要望が寄せられており、運用のあり方について検討を進める。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年に新築された第一教授研究館の個人研究室の平均面積は22.3㎡で、好適な教育研究環境が整備されている。文学研究科に關係する高額図書整備も、戦略的研究基盤整備事業などにより、順調に進んでいる。大学院生から長年強い要望のあった各領域の共同研究室開室時間延長についても、施設設備改善により実行に向けた準備が進められている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教員の研究条件は比較的好適な水準が維持されている。共同研究室開室時間延長は2014年度内には達成される見込みである。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 共同研究室開室時間延長による安全の確保などについて今後注視する必要がある。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 全学の規定に従って「人を対象とした臨床・調査・実権研究」に際しては審査を受けることを義務づけている。動物実験等についても同様の措置を講じている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度の「人を対象とした臨床・調査・実験研究」への申請者・申請数は専任教員10名10件、契約助手・大学院生・研究員11名11件であり、すべて承認または条件付承認であった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、規定通りの運用が図られるように指導する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標5	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度に文学研究科(文学部)教員による個人研究費不正使用問題が発覚したことから、これに厳正に対処するとともに、全学レベルでの制度見直しと併せて文学研究科教員を対象とした研究費適正利用についての講習などを重点的に行ってきた。また、個人研究費の執行管理制度が変更されて、より透明性の高い制度化がなされた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 制度的整備に伴い研究費の適切な使用がいつそう担保されるようになった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究費等の改善は研究科の管轄ではなく、全学レベルでの検討が望まれる。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆